

「地域とともに伸びゆく学校」

～ コミュニティスクールの素地となるもの ～

阿智第二小学校

はじめに

阿智第二小学校の児童数は、今年度をピークに今後は減少の傾向にある。数年後、或いは十数年後、児童数の推移によっては学校はどうなっているのかが心配される場所である。学校に活気がなくなると地域も活気を失い、統合により地域から学校がなくなり、子どもの声が消えると地域自体衰退していく。地域と学校はそんな間柄になっていると考える。そこで、地域が愛する学校をこれまで以上に大切に、地域で守り盛り上げ児童数の減少に負けないよう「元気」を注入していくことが大切である。今後心配される学校統廃合により、地域から学校がなくなるようなことにならないよう努めていくことが地域として学校に対してできることではないかと思う。

地域と学校のつながり

阿智第二小学校と阿智村伍和の地域は近年、つながりが濃くなり連携がスムーズに行えるようになってきた。そう思う理由としていくつかの事例を紹介したいと思う。

1 伍和子ども会育成会との連携

伍和地区の子ども会育成会は、組織上学校や保育園とは切っても切れない関係がある。なぜならば、育成会長は例年小学校のPTA副会長が、事務局は保育園の保護者会長が務めることになっているからである。また、学校職員も役員となっており、会合には毎回参加している。したがって行事の検討や地域での子どもの様子など話し合うためには利便性に優れた組織といえる。更に育成会長は自治会の役員になっているため地域と学校をつなぐパイプ役ともなっている。



保護者も共に稲刈り作業

2 地域・公民館行事への学校の参画

公民館事業の中に二つの大きな行事、運動会と敬老文化祭がある。そのイベントに毎回学校から多くの演目で参加している。また、準備や片付けにも学校職員が積極的に参加するなど、まさに地域とともにある学校となってきた。



準備・運営に関わった伍和文化敬老祭

3 地域の方々を講師に…クラブ活動

昨年度PTA総会の折に学校よりクラブ活動の講師要請の呼びかけがあり、幾人かの地域の人たちや保護者がその要請を受けた。中でも伍和クラブの活動では、広い果樹園を持っている保護者が

りんごと梨の木を子ども達の農業体験のために提供して下さり、子ども達は、花つけや摘花作業等を体験し、収穫の喜びまで感じさせてもらった。また伍和地域の良さを実際に現地に行って紹介するなど、子ども達に少しでも多く地域の良さを知ってもらいたいという思いで活動してきた。今後も継続して担当していきたいとのこと。その他にも保護者がクラブ



地域の方が講師となって指導…クラブ活動

の講師として学校教育に参画した。学校からの呼びかけで、今年度7つのクラブで保護者を含む地域の大人が講師として持ち前の知識や技能を発揮した。最後のクラブでは、素直な子ども達とこうした機会を通して触れ合い、楽しむことができよかったとの感想を聞かせてくれた。地域とのコミュニティーは、子ども達、講師その双方が互いに良い経験や学びができるところに良さがある。そして、学校からの依頼もあり、講師の方々は皆阿智村の人材バンクに名前を登録されることになった。



お年寄りから籠の作り方を学ぶ

「学校は敷居が高くてどうも気軽に立ち寄れない」といった遠慮が以前はあったが、今は全くなく、むしろ平気で入っていけるようになった。これからは地域と学校が太いパイプで結ばれ、共に手をたずさえてわが子のみならず地域に住まう子どもたちを地域全体で見えていけるように働きかけたい。そして、そうすることが、地域の教育力を更に向上させていくのだと考える。

※飯伊PTA研究大会第3分散会話題提供要旨 阿智第二小学校PTA会長

PTA会長の話題提供の基本にあること

今年度は、「信州型コミュニティスクール」全面実施の年である。本校においても、運営内容としては「学校運営協議会」とまではいかないにしても既存の組織を活用しながら一応はそれに代わる組織があり、会議の折には地域コミュニティーに関わる検討を行ってきた。あくまでもこれは「コミュニティスクール」として認められるための組織である。

しかし、その組織づくり以前に大切なこととして、学校と地域が良好な関係になっており、「地域の子どもは地域で育てる」といった主体的な意識が基盤にないと、いくら組織があり会合を設けても私たちが望む本当のコミュニティスクールにはなっていないのではないかと考える。したがって、地域と学校とが仲良くし、良好な関係を築くことが「コミュニティスクール」を育てるための要件だと考えた。



食生活改善委員会の方々が料理の手ほどき

そこで、昨年度より「『PTA』を地域と自然な形でつなげるためのジョイントとしての組織にしたい」という願いを持って関わってきた。その理由として、PTAと学校運営協議会との関係が

スムーズにいかないために、学校運営協議会などの組織は確立しながら、なかなか円滑な運営が行われなかったという悩みを聞いたことがある。PTAは子どもの保護者主体の組織なので、当然学校のことや児童のことを大事に考える。したがってその存在をおざなりにはできない。そこで、昨年度より、講演会などのPTA主催の行事について担当職員が複数回、自治会の役員会に参加しPRをしたり、説明をしたりして参加を呼び掛けるなど、自治会の方々にPTAを身近に感じてもらったり、関心をもってもらったりすることで地域とのつながりを作ってきた。そして、今年度も



保護者や、地域の方々の読み聞かせ

昨年度に引き続き、自治会主催の行事に準備から当日まで学校からも児童、職員が多数参加するなどして盛り上げることができた。



阿智祭に出店、畑で収穫した大根を売る

このように、地域と学校とPTAが融合することで、地域にとって学校は大切な存在だという意識を育むことが、コミュニティーを自然な形で長続きさせるのに効果的と考える。研究大会におけるPTA会長の話題提供は常々そのような対話をPTAの会合の折、また、育成会の会合の折に行ってきたことからこのような話題提供を行った。